

【応募用紙】

提出いただいた応募書類（定款等、役員名簿、収支書類を除く）は、活動内容紹介のため、ホームページ上に公開します。

1 応募者概要

事業所	名称	(ふりがな： ゆうげんがいしやまるにしょうてん) 有限会社マルニ商店		
	代表者役職・氏名	代表取締役 栗原 晴彦	従業員数	54名
	所在地	〒 220-0072 横浜市西区浅間町3-174-1		
	ホームページアドレス	https://marunishoten.co.jp/		
	事業開始年月	1970年9月	環境への取組を開始した年月	平成19年4月
	事業内容	ガラスびんをはじめとする循環資源物のリサイクル事業 清涼飲料水の販売事業 工場等の清掃事業		
	環境への取組について過去に受けた表彰等	(例) 横浜□□賞(平成○年度) ISO14001認証取得(平成18年より継続) 第16回横浜環境活動賞(平成20年度) 横浜型地域貢献企業最上位認定(平成19年度から継続) 横浜市金沢区「環境にやさしい企業」認定(平成26年度) 「文部科学省青少年の体験活動推進企業表彰審査委員会特別賞」(平成30年度)		
本社	名称	有限会社マルニ商店	所在地	横浜市西区浅間町3-174-1
	総従業員数	54名	資本金	300万

2 環境に対する企業理念の設定、管理体制

(1) 基本理念・自己宣言等

「安全第一、品質第一、負けるが勝ち（常にお客様とともに）」という社是を忘れることなく、時代のニーズに応じたリサイクル事業を展開、「持続可能な循環型社会」づくりに貢献してまいります。

(2) 環境マネジメントシステム関連

	取組等の名称	詳細内容
ア 認証等	①ISO14001 ②横浜型地域貢献企業認定	①環境に関する国際認証規格 ②地域社会を意識し、地域貢献の視点を持って社会的事業に取り組み地域とともに成長発展を目指す企業を認定するもの。同認定制度制定以来、「最上位認定」をいただき、10年が経過いたしました。
イ 組織体制	環境管理チーム	社長をトップマネジメントとし、各事業所の所長がチームメンバーとなることで、広く社内への浸透を図っています。
ウ チェック機構	①ISO14001 について ②横浜型地域貢献企業認定	①内部監査員を設置し、年に一度、定期的内部監査を実施しています。また、同様の頻度で外部審査を受審しています。 ②内部監査員を設置し、2年に一度、定期的内部監査を実施しています。また、同様の頻度で、外部審査員による更新審査を受審しています。

<p>エ その他の 取組</p>	<p>①リサイクル出前講師</p> <p>②環境イベントへ出展</p> <p>③環境絵日記描き方教室 【資料1】2019年度環境仕事人プロジェクト～サイダー事業報告</p> <p>④アイドリングストップキャンペーン</p>	<p>①年平均7～10校の小学校へリサイクル出前講師として訪問しています。15年ほど継続しています。</p> <p>②2017年から環境イベントへ自社ブースを出展し、主力事業であるガラスびんのリサイクルに関する啓発活動を行っています。 直近では、2019年横浜市資源リサイクル事業協同組合「環境未来都市・環境絵日記展」に出展いたしました。</p> <p>③横浜市資源リサイクル事業協同組合主催の「環境絵日記」の描き方教室を夏休みに開催しています。小学校低学年児童には難しい環境絵日記について、小学校低学年を主なターゲットに環境、絵日記の描き方をテーマに、講座を2年前から実施しています。</p> <p>④取引先事業者の皆さんに啓発チラシを配布して、アイドリングストップを呼びかけるキャンペーンを毎年秋ごろを中心に9年にわたり実施しています。</p>
----------------------	---	--

(3) 取組結果等の公表・広報

ホームページ、フェイスブックページ（週に一度更新）、「マルニ通信」（年2回発行の得意先向けフリーペーパー）にて、随時、広報に努めています。

3 環境に配慮した製品や技術開発、サービス等の提供・導入

製品・技術・サービスなどの名称	詳細内容
①ガラスびんリサイクル事業（本社・金沢事業所）	①弊社主幹事業であるガラスびんリサイクル事業を1930年の（前身企業）より一貫して行っています。月間取扱量は1700トン。現在ガラスびんリサイクル専業事業者としては、横浜で唯一の企業となっています。
②ガラス工芸品の販売（本社・金沢事業所）	②ガラスびんリサイクルにおいて最も大事な工程である色選別作業時に発生する端材を利用してガラス工芸品を製造、販売しています。「本来廃棄されてしまうものに新たな価値をつくりたい」という社員発案の本事業は、弊社販売サイトやイベント出展時に販売しています。
③未来の環境仕事人養成プロジェクト（本社・金沢事業所）	③小学生を対象とした環境教育プログラムを作成、低学年・中学年・高学年と年代に応じたプログラムを実施しています。 【資料2】 青少年の体験活動推進企業表彰ポスター

4 事業活動において環境に配慮している取組、社会貢献活動

※取組や活動を開始した年度も記載してください。

	取組・活動等の名称	詳細内容
(1) 省エネ・CO2排出量削減の取組	①環境マネジメントシステムとしての取組み（本社・金沢事業所） ②再生可能エネルギーの使用（本社・金沢事業所）	①省エネルギー手順書に基づいて、空調温度や電子機器の電源、水道ガスの使用について、独自ルールを作り運用している。また、事務用品についても、100%再生紙使用とするなど、グリーン購入を原則としています。 運搬車両についても、エコドライブ手順書に則り、燃費向上に向け目標値を定め運用しています。 また、アイドリングストップについては、取引業者への呼びかけもキャンペーン期間を設けて啓発に努めています。 ②2019年10月より「横浜市と青森県横浜町との再生可能エネルギーに関する連携協定」の取組みに参画し、本社金沢事業所の全電力を横浜町からの再生可能エネルギーに転換しています。 【資料3】 横浜市記者発表資料
(2) 廃棄物削減の取組	①環境マネジメントシステムとしての取組み（本社・金沢事業所） ②ガラス工芸品の販売（本社・金沢事業所）	①事業所内の廃棄物量削減を目指し、事業所管理マニュアルに基づき、昼食に購入した弁当容器を自宅持ち帰りにするなどの対応を行っています。また、その他で生じた容器は、弊社事業の特性を生かし、リサイクルルートに乗せることにより、廃棄物の削減に努めています。 ②ガラスびんリサイクルにおいて最も大事な工程である色選別作業時に発生する端材を利用して2016年からガラス工芸品を製造、販売しています。「本来廃棄されてしまうものに新たな価値をつくりたい」という社員発案の本事業は、弊社販売ウェブサイトやイベント出展時に販売しています。

(3) 生物多様性 保全等の取組		※生物多様性特別賞の選考の参考とする欄
(4) 社会貢献活動	<p>①未来の環境仕事人養成プロジェクト (本社・金沢事業所) 【資料2】青少年の体験活動推進企業表彰ポスター</p> <p>②事業所周辺の清掃活動 (金沢事業所)</p> <p>③JICA との連携 (本社・金沢事業所) 【資料4】研修スケジュールについて</p>	<p>①小学生を対象とした環境教育プログラムを作成、低学年・中学年・高学年と年代に応じたプログラムを実施しています。正しい環境意識の醸成には、「気づき・理解(納得)・行動」の三原則が大切な要素と考え、以下のプログラムを実施しています。 低学年(気づき);環境絵日記描き方教室を夏休みに開催、本社地元小学生を対象に環境問題への興味を持ってもらうきっかけづくりを行っています。 中学年(理解(納得));オリジナル地サイダーの製造販売を協働して行い、地域とのかかわり、流通を通じての資源化の大切さを体感してもらう企画を行っています。また、座学におけるリサイクルのゆくえんについての講座を開催することで、流通～再資源化という一連の資源循環ループについて理解を促します。 高学年(行動);実際のリサイクル現場を体験する機会を設け、職場体験の授業を行っています。実際の作業を体験することで、普段の生活の中での正しい行動に導きます。</p> <p>②金沢事業所では、昼休み前の30分、終業前の30分を清掃タイムとしています。こうした活動の継続により、「マルニさんにはばかりお願いしてるのは悪いから」と周辺企業様の清掃活動も活発になっています。</p> <p>③JICA 沖縄主催によるカリブ島嶼地域の日本研修の視察受け入れを毎年受け入れています。弊社を視察見学あるいは、開催地沖縄へ講師として招かれ、リサイクル事業について、また、中小リサイクル事業者が環境活動・社会貢献活動を行う意義について、講演しています。今年度、10年目を迎えました。また、今年度は、JICA 青年海外協力隊員が新型コロナウイルスの影響により、海外派遣を中止、国内待機となっていることから、環境教育分野、廃棄物管理を担当する隊員が、弊社事業所にて作業体験を中心とした合計3日間の研修を行いました。</p>

6 今後の取組・活動方針

※次年度以降の目標や継続のための取組・活動方針も含めて具体的に記入してください。

※現在活動休止中の場合でも、今後の活動の見込みや方針について御記入ください。

弊社では、リサイクルを通じて社会に貢献する企業、「ソーシャルリサイクリングカンパニーを目指して」をビジョンテーマに掲げ、これからも様々な角度からリサイクルでまちをデザインし、SDGsの達成にも寄与できるよう取り組んでまいります。

今後の活動方針

プロジェクト名	具体目標	達成すべき SDGs ゴール
①リサイクル促進プロジェクト	ガラスびんリサイクル取扱量を年間 200 トン増 リユースびん取扱量を年間 1000 ケース増 太陽光リサイクル事業への参入	SDGs ゴール 9.11.12.17
②未来の環境仕事人プロジェクト	出前講師事業のメニュー多様化 「hands to hands サイダープロジェクト」の取り組み拡大	SDGs ゴール 3.4.12.17
③啓発活動の推進	JICA との連携	SDGs ゴール 4.12.17

①リサイクル促進プロジェクト (SDGs ゴール 9.11.12.17)

主幹事業であるガラスびんリサイクル事業は、ガラスびん自体の生産量が年々微減していることから、市場の閉塞感はぬぐえず、廃業する事業者も散見されています。そうした中で、リサイクル事業のみならず、リユースびん事業参入も業界内で期待されていることから、これからの担う企業として選ばれるよう事業拡大してまいります。横浜市内のガラスびんリサイクルの中心的役割を担うことで、地元横浜の資源循環型社会の発展に寄与してまいります。

また、再生可能エネルギーの主役である太陽光パネルのリサイクルについて、その必要性は、ますます高まることから、製造メーカーとの情報交換を行い、事業参入を目指してまいります。

②未来の環境仕事人養成プロジェクト (SDGs ゴール 3.4.12.17)

弊社の啓発活動の柱である本プロジェクトは、これからも継続的に実施していきます。

中でも、出前講師事業は、新たな生活様式に呼応したプログラム実施のニーズにも対応できるよう映像配信方式を構築します。第一歩として、今年度は、web 会議システム zoom を使用して、私立関東学院小学校 4 年生を対象に映像配信での授業を 1 回実施いたしました。来年度に向け、課題を整理していきます。また、「hands to hands サイダープロジェクト」の取り組みを拡大します。現在は小学生と地域を繋ぐ学びの一つでしたが、新たなテーマとして、小児がんの子どもたちを支援する取組を展開の一つとして取り入れます。

今回は、従来の横浜市内の飲食店や小売店舗での販売やネット販売、プロスポーツチームとのコラボレーション（調整中）を通じて、その地域循環の枠組みを市内全域に拡充します。小児がんを患っている子どもたち自らが啓発活動を行っている「一般社団法人みんなのレモネードの会」※にラベルデザインを依頼し、売り上げは同会とともに、小児がんの啓発普及による横浜市民への情報啓発の資金として活用します。市内全域へと活動を広げることで、脱プラに寄与するガラスびんの使用量増に繋げ、リサイクル量の増大にも寄与します。

※一般社団法人みんなのレモネードの会

横浜在住の小児がん経験者の小学生と仲間家族で発足、小児がんの啓発、患者どうしのネットワークづくりを目的としている。アメリカの小児がん闘っていたある少女が、「人生があなたにレモンを与えるなら、レモネードを作ればいい。つまり、試練（すっぱいレモン）があってもいい方向（甘くておいしいレモネード）にしていこう」ということわざから、自宅の庭でレモネードスタンドを開き、治療のために寄付するという活動を行ったことに由来している。現在は、コロナ禍により、病の特性もあり、レモネードスタンドの活動の場が、ほぼ絶たれてしまっている。

③啓発活動の推進 (SDGs ゴール 4.12.17)

出前講師を中心に活動を広げている啓発活動の中で、JICA との連携活動が広がりつつあります。海外からの研修受け入れの他、今年度実現した青年海外協力隊など海外の環境教育の発展につながる啓発活動を積極的に行っていく。「誰一人取り残さない」という SDGs の理念は、その目標ターゲットの多くの部分で途上国の環境改善が内容に盛り込まれている。こうした部分に少しでも貢献できてこそ SDGs への貢献できたといえると認識しているので、積極的にアプローチしてまいります。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第28回は、審査会場でのプレゼンテーション（自己アピール）を実施しません。審査の参考とするため、最も注目してもらいたい取組・PRポイントについて具体的に記入してください。

【例】

- 最も注目してもらい・評価してもらいたい取組
- 一番成果があがっていると思う取組
- 他の企業と異なる強み・独自性
- 取組の過程で、どのような努力・苦労があったか など

●最も注目してもらい・評価してもらいたい取組

未来の環境仕事人養成プロジェクト

弊社は、1930年に創業以来一貫して資源化事業に携わってまいりました。環境ビジネスに注目が集まる一方、廃棄物処理・資源化事業の現場で働いてみたい！という人材は減少しています。

こうした状況に少しでもできることはないか？という想いで、このプロジェクトを立ち上げました。

低学年・中学年・高学年の3ブロックに分け、小学校の先生方と教育カリキュラムとの整合性について話し、成長度合いに合わせたアプローチを意識して、メニューを作成しました。

対象学年	プロジェクト内容	該当する学びのテーマ
低学年	環境絵日記描き方教室	身近な自然、環境への興味
中学年	「hands to hands サイダープロジェクト」 リサイクル出前講師 「リサイクルのゆくえ」	地域とのかかわり ごみ、環境問題
高学年	仕事体験	キャリア教育、環境問題

プロジェクトの中で最も長く行っている「リサイクル出前講師」は、15年にわたり延べ5,000名の子どもたちを対象に実施してきました。

平成30年度「青少年の体験活動推進企業表彰審査委員会特別賞」を受賞させていただいたように、子どもたちに体験の場を提供するとともに、将来廃棄物処理・資源化事業の現場で働く、まさに「環境仕事人」となる礎となるよう、これからも継続してまいります。

こうした事業を通じて、いわゆる社会貢献活動にとどまらない、企業のプラスワンの価値として、主力事業である資源リサイクル事業とともに「リサイクルでまちをデザインする」企業に成長してまいります。

●一番成果があがっていると思う取組







「hands to hands サイダープロジェクト」は、開始当初は中学年対象のプログラムでしたが、昨年度には、市内3校での実施となり、参加される学校の先生方から、環境、経済、社会、キャリア教育など広い視点からの学びに活用できるとご評価いただいています。

来年度に向けて、小児がんの子どもたちを支援する取組へと広げることで、福祉の分野にもかかわりを拡大していきます。環境教育活動としてスタートしたプログラムが新たな領域に歩を進めることにより、SDGsの実現に向け寄与してまいります。

前回受賞からの主な発展内容

平成 20 年度第 16 回	令和 2 年度第 28 回
<p>環境保全・再生・創造に対する企業理念の設定、管理体制</p> <p>ISO14001 認証取得2006年 3月</p>	<p>環境保全・再生・創造に対する企業理念の設定、管理体制</p> <p>ISO14001認証取得（平成18年より継続）</p> <p>横浜型地域貢献企業最上位認定（平成19年度から継続）</p> <p>横浜健康経営認証AA</p> <p>認証取得は増加し、それぞれの視点からの経営管理を行っている</p>
<p>省資源・省エネへの取組み</p> <p>CO₂排出削減への取組み</p> <p>本社・市沢事業所では電気、ガス、上水の各使用量に削減目標を定め、環境活動を実施。2005年の11月に取り組みを開始して以来、水道、ガスの使用量を大きく削減。収集運搬車両の軽油使用量について削減目標を設け、2006年度は前年度比10%、2007年度も上半期に3.2%（前年同期間比）削減に成功。</p>	<p>省資源・省エネへの取組み</p> <p>CO₂排出削減への取組み</p> <p>電気ガス上水の使用量の一定の削減を終え、現在は維持管理項目にとどめ、安定的な最低限使用量を維持している。</p> <p>2019年10月より「横浜市と青森県横浜町との再生可能エネルギーに関する連携協定」の取り組みに参画し、本社金沢事業所の全電力を横浜町からの再生可能エネルギーに転換した。</p> <p>軽油使用量自体は、運搬車両増車により増加しているが、燃費ベースでは安定的なエコドライブを実践できるようになった。</p>
<p>社会貢献活動</p> <p>「リサイクル出前講師」事業に積極的に取り組んでいる。年間5～7回の講師を務めている。</p> <p>2000年より横浜市資源リサイクル事業協同組合主催のリサイクルデザインフォーラム（環境絵日記コンクール）にスタッフとして参加。</p>	<p>社会貢献活動</p> <p>「リサイクル出前講師」は、15年にわたり延べ5,000名の子どもたちを対象に実施を継続中。</p> <p>児童の年代に応じて、小学校のカリキュラムに応じた環境教育プログラムを策定、継続的实施を行っている事例は、他社に比べ先駆的と評価していただき、平成30年度「青少年の体験活動推進企業表彰審査委員会特別賞」を受賞。</p> <p>2017年から環境イベントへ自社ブースを出展し、主力事業であるガラスびんのリサイクルに関する啓発活動するなど、主体的な活動に移行している。</p>

資料1 2019年度環境仕事人プロジェクト～サイダー事業報告

時期	事業	内容
7月17日	<p>【啓発授業①】南山田小</p> 	<p>サイダーラベル作成に関する意識導入の授業を行いました。</p> <p>講師；マルニ商店 栗原</p>
7月19日	<p>【啓発授業②】梅林小</p> 	<p>サイダーラベル作成に関する意識導入の授業を行いました。</p> <p>講師；マルニ商店 栗原</p>
8月3日	<p>【啓発授業③】 浅間台小児童対象に開催の環境絵日記描き方教室で @ディアナ横濱【会場使用料有】</p> 	<p>環境絵日記の描き方教室内で、サイダーラベル作成に関するアイデア、ヒントについてレクチャーしました。</p> <p>講師； (横浜市資源リサイクル事業協同組合青年部) ガラスびん他資源物啓発</p>
8月3日	<p>浅間台小サイダー販売体験@地元祭礼</p> 	<p>(NPO 法人ディアナ横濱) サイダーラベルデザイン担当</p> <p>子どもたちによる販売体験、販売指導を行いました。</p> <p>講師； (浅間台小学校学校地域コーディネーター)</p>
8月3日	<p>南山田小販売体験@地元祭礼</p>	<p>完成後のラベルにて販売体験、同校教諭が指導。</p>
10月11・12日	<p>金沢区ピアフェスタでサイダーに関するワークショップ</p>	<p>次年度ラベル作成への意識導入</p>
10月26日	<p>浅間台小運動会で販売体験</p>	<p>次年度ラベル作成への意識導入</p>
11月30日	<p>梅林小地域で販売体験</p>	<p>完成後のラベルにて販売体験、同校教諭が指導。</p>
12月8日	<p>SDGs 未来都市・環境絵日記展工作ブースで、サイダーラベルデザインに関するワークショップを実施。</p>  	<p>40名の来場があった。</p> <p>講師；</p>

有限会社マルニ商店 未来の「環境仕事人」養成プロジェクト ～キャリア教育からのアプローチ～



本プロジェクトは、小学校1年生から6年生までの子どもたちが、年代に応じて様々な観点から環境学習に触れ、正しい環境意識を醸成して、未来の環境事業に携わる「環境仕事人」を養成するプログラムです。



1・2年生が取り組む
環境絵日記



5・6年生仕事体験

10年以上続く充実のプログラム

「これまでのリサイクルの授業で、ガラスびんの仕事が楽しく学べました。大人になったらマルニ商店さんに就職させてください」
～6年生からのお手紙～

3年生サイダー販売写真



4年生リサイクル出前授業

有限会社マルニ商店

未来の環境仕事人養成プロジェクト ～キャリア教育からのアプローチ～



創立:1930年

社是:安全第一 品質第一 負けるが勝ち(常にお客様本位に)

従業員数:54名

所在地:横浜市西区浅間町3-174-1

事業所:本社、金沢事業所、横須賀事業所、埼玉事業所

取扱品目:・ガラスびん・古紙・鉄・アルミ等のリサイクル事業

受賞・認定:ISO14001認証取得(2006年)

- ・横浜型地域貢献企業最上位認定
- ・第16回横浜環境活動賞受賞(2008年)他

資源リサイクル事業を行っている弊社では、近隣小学校と連携し、1年生から6年生までの子どもたちが、年代に応じて様々な観点から環境学習に触れ、正しい環境意識を醸成して、未来の環境事業に携わる「環境仕事人」を養成するプロジェクトを行っています。

3年生で取り組む オリジナルサイダー販売



3年生では、身近な環境、街について学びます。

オリジナルサイダーを市内企業と連携して作成、地元地域の皆さんに販売する体験を行うところから、その後の資源化の必要性にも想いを馳せるプログラムを実施します。



4年生で取り組む リサイクル出前教室



4年生では、ごみ、リサイクル
について学びます。

座学を通じて、身近な資源
物がどのようにリサイクルされ
ていくかを知り、なぜそうした
行程が必要なのか、深く学
習します。



5・6年生で取り組む 仕事体験



「これまでのリサイクルの授業で、ガラスびんの仕事が楽しく学べました。大人になったら、マルニ商店に就職させてください」

～仕事体験後の6年生からのお手紙～

5・6年生では、実際に市中から回収されてきたガラスびんを再資源化する作業を体験します。

グループワークの中で、どうしたら効率よく色選別作業ができるのか、作業をしながら子どもたちだけでPDCAサイクルを構築し、成果に繋げていきます。



令和元年12月27日
 温暖化対策統括本部調整課
 青森県横浜町企画財政課

青森県横浜町の再エネ電力を 横浜市内中小企業9社へ新たに供給開始

東北12市町村と締結した「再生可能エネルギーに関する連携協定」 に基づく取組第2弾

横浜市は、2018年10月に改定した「横浜市地球温暖化対策実行計画」において、2050年までの脱炭素化「Zero Carbon Yokohama」の実現を本市の目指す姿としています。そこで、2019年2月6日に、同様の連携事例としては全国で最大規模である東北の12市町村との「再生可能エネルギーに関する連携協定」を締結し、再生可能エネルギーを通じた地域循環共生圏（※）の構築のため協議を進めてきました。

この度、連携協定に基づく取組の第2弾として青森県横浜町の電力を横浜市内中小企業9社で使用を開始することになりましたので、ご報告いたします。本年9月5日に発表した第1弾を合わせると、現在市内15社で横浜町の電力が使用されています。

※地域循環共生圏：各地域がその特性に応じた地域資源を生かし、自立・分散型の社会を形成しつつ、近隣地域と地域資源を補完し支え合うことで、地域を活性化させるための考え方。第五次環境基本計画（2018年4月閣議決定）にて提唱。

【需要家の皆様と電力使用施設の紹介】

<p>非営利任意団体アイカサ横浜 電力使用施設：事務所</p> 	<p>愛和食品株式会社 電力使用施設：本社</p> 	<p>石井造園株式会社 電力使用施設：本社</p> 
<p>株式会社小俣組 電力使用施設：本社</p> 	<p>株式会社太陽住建 電力使用施設：本社</p> 	<p>合資会社宝田商店 電力使用施設：元町本店</p> 
<p>自家焙煎珈琲店 陽のあたる道 電力使用施設：店舗</p> 	<p>有限会社マルニ商店 電力使用施設：本社、金沢事業所</p> 	<p>有限会社柳沢精機 電力使用施設：横浜工場</p> 

資料4

研修スケジュールについて

- ・ 期日：11/17（火）（11/24（火））
- ・ 9：00横浜駅東口を出た郵便局前～マルニ商店本社にて着替え等
- ・ （作業体験のため動きやすく汚れても良い服装・靴をご用意ください）～
- ・ 9：30資源集団回収現場に合流
- ・ 13：00頃リサイクルポート山ノ内にて昼食休憩
- ・ 14：00～リサイクルポート山ノ内見学（30分程度）～弊社金沢事業所へ移動～
- ・ 15：30ガラスびん選別作業体験（17日or24日プレスリリースの可能性あり）
- ・ 16：00質疑応答等～
- ・ 16：30終了、横浜駅まで移動後解散
- ・ 期日：11/18（水）（11/25（水））
- ・ 9：00横浜駅～横須賀リサイクルプラザ内弊社横須賀事業所へ移動～
- ・ 10：00施設内見学～
- ・ 11：30昼食休憩～
- ・ 12：30作業体験～
- ・ 15：30質疑応答等～
- ・ 16：30終了、横浜駅まで移動後解散

地域の子どもたちを応援する hands to handsサイダー 2019年度の取り組み



🥕 横浜市立浅間台小学校(西区)

2016年度から販売を開始。

浅間台小学校の子どもたちがラベルをデザインし、浅間台小学校の魅力を絵と文で表現しています。

地域のお祭りや学校行事の際に販売、毎年1000本を超える販売量を記録しています。売り上げの一部は、浅間台小学校の子どもたちの環境教育教材費用として、寄付され、昨年同校恒例の餅つき大会で使用する臼をプレゼントしました。

地域の子どもたちを応援する hands to handsサイダー 2019年度の取り組み



横浜市立南山田小学校(都筑区)
今年度から販売を開始。

南山田小学校6年生の子どもたちがラベルをデザインし、南山田小学校の魅力を絵で表現しています。ラベルには、QRコードも設け、マーケティング調査も実施しました。

8月2日の地域のお祭りの際に販売、1日で予定数量800本を完売しました。

地域の子どもたちを応援する hands to handsサイダー 2019年度の取り組み



横浜市立梅林小学校(磯子区)

今年度から販売を開始。

梅林小学校個別支援級の子どもたちがラベルをデザインし、同校の創立

60周年を記念して、同校の周囲にある50本の梅の木から採れた梅の実を使って、梅サイダーを作成します。

創立記念式典の記念品として、また、地域の販売店・施設で販売予定です。

サイダー製造工場を見学しました